

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

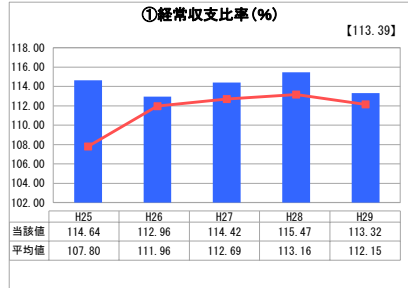
埼玉県 蕨市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	73.04	100.00	2,430	

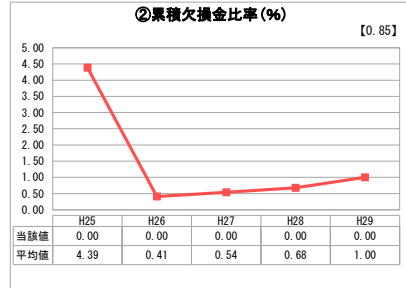
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
74,576	5.11	14,594.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
74,693	5.11	14,617.03

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

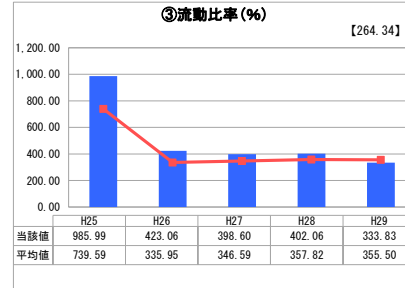
## 1. 経営の健全性・効率性



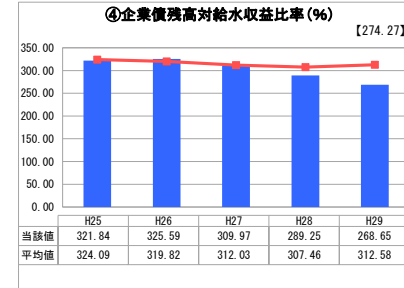
「経常損益」



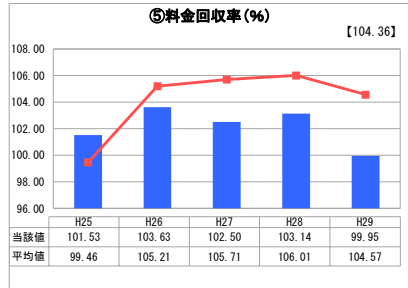
「累積欠損」



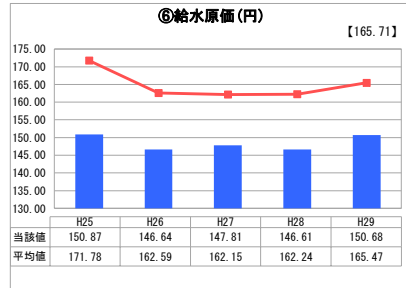
「支払能力」



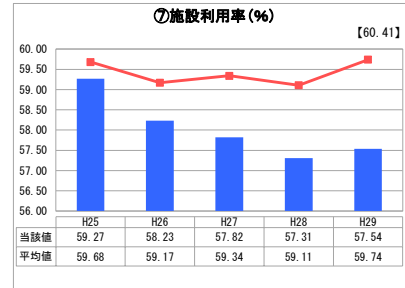
「債務残高」



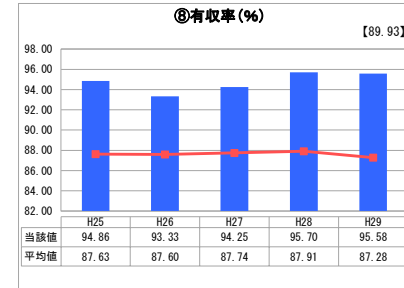
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

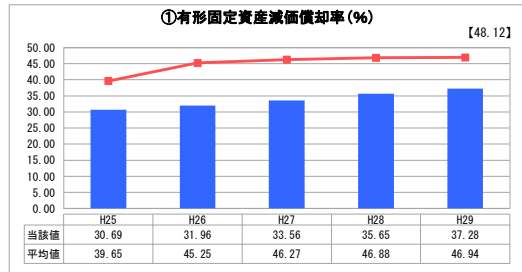


「施設の効率性」

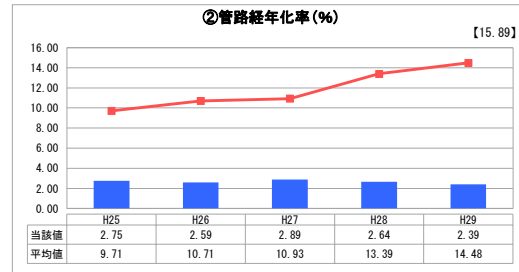


「供給した配水量の効率性」

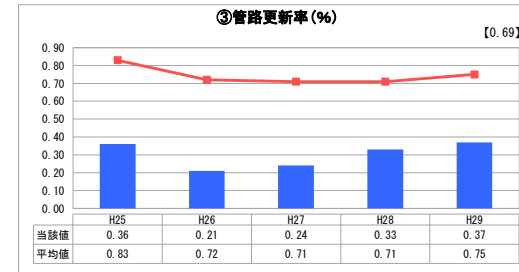
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は100%を上回ったものの、一時的費用の増加により下落した。  
 「②累積欠損比率」は0%を維持している。  
 「③流動比率」は、未払金の増加により下降したため、類似団体平均値を下回ったものの、一時的なものであり、概ね安定的な経営状況といえる。  
 「④企業債残高対給水収益比率」については、新規借入を行わず、施設や管路の更新を内部留保資金により計画的に実施したため、改善傾向を維持している。  
 「⑤料金回収率」は100%を僅かに下回ったが、一時的費用の増加によるものであるため、問題ないと認識している。  
 「⑥給水原価」は、全国平均値及び類似団体平均値よりかなり低い状況にあり、効率的な給水を実施できている。  
 「⑦施設利用率」については、配水量の増加を見込み難い状況にあることから、適正な施設能力を見極め、施設更新時にダウンサイジングを検討する必要がある。  
 「⑧有収率」は、平成23年度以降は90%以上で推移し、全国平均値及び類似団体平均値を大幅に上回っており、高水準を維持している。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は35%程度となっており、類似団体平均と比べて資産の老朽度合いが低い状況にある。  
 「②管路経年化率」は類似団体平均値と比較して、五分の程度となっており、管路の更新事業も進めていることから、健全性が高く保たれている状況となっている。  
 「③管路更新率」は、ここ3年間で増加傾向にあるものの、依然類似団体と比較して低い状況にある。これは、基幹管路を中心に管路の新設を進めたため、更新工事割合が低くなったことが主な要因である。

## 全体総括

経営の健全性及び効率性に係る指標を分析すると、経営状況は概ね健全な状態であるといえる。しかしながら、将来的には人口減少や少子高齢化などによる需要の減少が想定される中で、経年化施設の更新や、大規模災害に対する応急給水・応急復旧の整備を適切に履行していく必要がある。このような状況の中、平成29年度に見直しを行った蕨市水道ビジョン（後期計画）に基づき、主要管路の耐震化や水道施設の長寿命化など施設・設備投資の継続と、料金収入が減少する中で健全経営の両立を達成することにより、『将来にわたって健全な水道』の更なる強化を図っていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。